

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

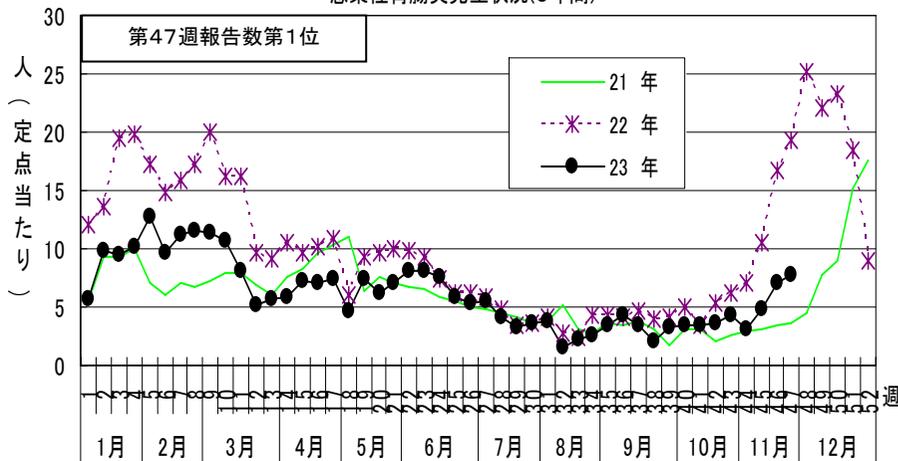
平成23年11月21日（月）～11月27日（日）〔平成23年第47週〕の感染症発生状況

第47週で定点報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)水痘でした。

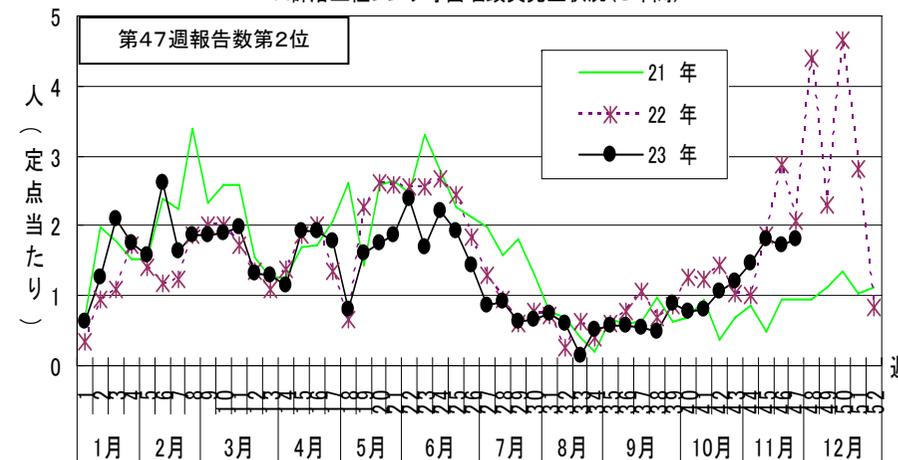
感染性胃腸炎は定点当たり7.82人と前週（7.00）より患者報告数は増加しており、今後患者報告数が大幅に増加し続けることが推測されますので、手洗いなどの予防対策が重要です。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.82人と前週（1.73）より患者報告数はやや増加していますが、例年と比較するとやや低いレベルでの推移となっています。また、4週連続でマイコプラズマ肺炎の報告がありました。例年に比べると非常に高いレベルでの推移となっています（全国的にも非常に高いレベルです）。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



マイコプラズマ肺炎に注意しましょう！！～患者増加中～

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマ（生物学的には細菌に分類される）を原因とする感染症で、5～12歳の小児で多く感染がみられます。通常通年性に見られますが、秋から冬にかけて多発する傾向にあります。

今年は、グラフのとおり、全国的にも9月以降で報告数が大きく増加しています。

どんな症状？

潜伏期間は通常2～3週間で、咳が長期にわたって続き、発作性に夜間や早朝時に強くなる特徴があります。その他に発熱・のどの痛み・鼻水・頭痛・胸の痛みなどもみられますが、肺炎としては症状が軽いことが多いとされています。

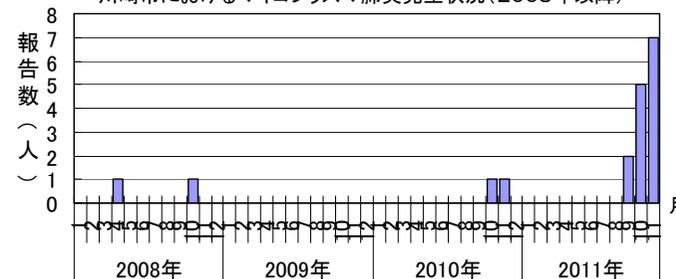
ただし、小児では重症例や合併症も多いため、注意が必要です。

治療・予防方法

抗菌薬による治療が可能で、一般に予後は良好です。また、比較的軽症で自然に治癒することもあります。

予防としては、流行期の手洗い・うがい及び患者との濃厚な接触を避けることが大切です。

川崎市におけるマイコプラズマ肺炎発生状況(2008年以降)



今年のマイコプラズマ肺炎発生状況(川崎市及び全国)



発行 川崎市健康福祉局健康安全室・衛生研究所・各区保健福祉センター(保健所)
(問い合わせ先) 044-200-2412